

納めLINE

宮城県地方税滞納整理機構通信

納めてください(標準語)
納めらいん(宮城の方言)
納めLINE(通信紙名)

県内一斉インターネット公売実施結果

373件の動産と1件の不動産を売却 落札総額は5,635,407円

平成21年11月17日、県内一斉インターネット公売の入札参加申込が開始となりました。参加自治体は23市町村と宮城県、出品総数は機構差押物件と自治体差押物件合わせて4百33件、宮城県においては過去に例を見ない規模の一斉公売です。出品物件の内訳は次のようなものでした。

- 不動産6件
- 自動車1台
- 軽自動車1台
- バイク5台
- 動産4百20件

この一斉公売を広く周知し、より多くの入札参加者を募るため、下見会も合同で平成21年11月18日に開催しました。会場は県庁2階講堂と駐車場、宮城県及び18市町村が2百60品を展示し、来場者数は7百15名、公売下見会としては異例の来場者数です。



下見会：県庁講堂

さらに多数の報道機関からの取材があり、連日テレビや新聞でも取り上げられたため、反響も大きく、入札に参加したいという問い合わせの電話が機構に多数寄せられました。最終的な申込総数は5千百89件(入札物件の申込件数は非公開)、これまで見たこともないような数字にこの一斉公売の成功を確信しました。

そのうち3百74件が落札(86.4%)となりました。その中で興味深い出品物を次に紹介します。何といっても今回話題になったのは亘理町が出品したハーレーダビッドソンでしょう。テレビや新聞で一斉公売が報じられるたびにこのハーレーが登場。参加申込件数は29件、特殊な車両であることを考慮すれば申込件数は予想以上であったと思われれます。



落札価格：71,120円

続いての高価落札は気仙沼市出品の洋酒。ブランド「LOUIS X III REMY MARTIN」。



落札価格：1,301,000円

また、気仙沼市が出品した「茶釜」も見積価格千6百円から入札開始し、3万2千6百円で落札。特に名のある人物の作というわけでもない茶釜が3万円を超えての落札、同時出品の鉄瓶や茶釜7品も1万円から2万円で落札されており、差押時に埃まみれだった状態からは想像できない落札価格です。



落札価格：31,600円

なお、洋酒については同時に出品されていたブランド「J.A. HENNESSY & C. COGNAC」も見積価格千6百円のところ3万5百円で落札。未開封の洋酒は高価落札が期待できる差押物件かもしれません。

さて、インターネット公売の定番出品物である宝石は今回も軒並み高値の落札となりました。塩竈市で出品したルビーリングは2カラットと大粒だったこともあり6万8千円で落札。指輪は買取業者の査定では宝石は考慮されず使用されて



落札価格：16,000円

次は大和町で出品した1988年のブルーフ貨幣セット。見積価格は貨幣価値そのものの6百66円、落札価格は24倍の1万6千円。コイン収集という趣味は今でも健在のようです。



落札価格：15,500円

また、火鉢に使用する「アーク」も今日では希少品となっているようです。アークが入った状態のよい火鉢は換価価値ありと判断できるのではないのでしょうか。



落札価格：87,000円

続いて石巻市出品の木製火鉢。ケヤキの一本物で厚さは目を見張るものがありました。落札価格も8万7千円と高額。火鉢の出品はこれまでも多数見てきましたが、一風変わった木製の火鉢は申込者数も百八名と人気ぶりがうかがえました。



落札価格：68,000円

いる金属のみの価格となるため、公売による売却が有効です。

機構 活動状況

機構の11月30日現在の機構の活動状況をお知らせします。

●引受件数及び税額
9百70件 20億2千1百70万円

●徴収金額 2億4千万円

●徴収率 11.9%

●納税誓約件数及び税額
20件 6千1百万円

財産を発見するために滞納者の自宅や店舗等への捜索を百56件実施し、うち97件については宝飾品等の動産の差押えを執行しました。また、その他に不動産9件、普通自動車4件、債権その他の財産2百45件の差押えを執行したほか、機構に連絡のあった滞納者と今後の滞納解消について話し合う納税相談を5百11件実施しています。滞納者の中には失業や経営不振等により収入が減少し、納税が困難になっている方もいることから、機構では生活保護制度、多重債務対策、雇用対策及び納税緩和制度に関する職員研修会を県庁で開催し、そうした事案に対する税務職員の対応能力の向上を図りました。今後、機構ではこれまで

に連絡のない滞納者を対象とした集中納税相談を1月中に実施するほか、滞納処分の強化やインターネット公売による換価の実施など、引受事案を年度内に解決するための取組みを進めていきます。

滞納整理のヒント 納付能力判断編 実研修会を実施

平成21年12月8日、市町村及び県の納税担当税務職員を対象とした研修会が実施されました。納税の業務は、捜索や差押等の厳しい一面がクローズアップされがちですが、徴収・換価の猶予や滞納処分の執行停止などの緩和制度を適正に活用し、納税者の生活を守るのも重要な仕事です。ここ数年は徴収のための滞納処分強化が重要視されてきました。しかし、一方で徴税吏員は担税力を測るうえで幅広い知識を求められます。この研修会には県及び市町村から80名を超える税務職員が参加しました。研修内容は、「生活保護制度について」、「宮城県における多重債務者対策等の現状」、「最近の雇用情勢と対策」、「納税緩和制度等の確認」とし、各分野



機構職員 の ヴォイス

私は、仙台市から少し離れた魚の旨い街から機構に派遣されてきました。派遣前の税経験という2年間取納業務に忙殺され、ほとんど言っていないほど滞納処分とは関わりのない業務を行っていました。そんな私がある日、上司によりとめられ、県庁に行ってみないかと言われてしまったのです。平成21年度から機構が立ち上るのは知っていましたが、私が行くことにな

るとはまったく思ってもおらず、どうしたらよいのかあたふたしていたところ、これからの仕事において県庁に行ってみるのもいい経験だと温かく助言してくれた先輩・後輩たちに背中を押され、県に向向することを決意しました。そして4月から機構での業務開始。滞納処分について何の知識も経験もない中で、まさに新入社員と同じ状態です。周りの方々の専門用語などについていけず、何をしたらいいのか、どう動けばいいのか不安でいっぱいでした。しかし、同じグループの仲間たちと協力し励まし合い、これまで仕事をしてくることができました。

この9カ月間でさまざまなことを経験してきましたが、特に印象に残っているのは、「初めての預金の差押」とある町での捜索、そして「3カ月ほどかかって自主納付に持っていた案件」です。預金の差押については、私の相棒が以前に納めラインでお話しているのので省きますが、とある町での捜索については、家に入るなり家財は何もなく、あるのは数個の段ボールのみ。段ボールの中身はビデオテー

プだけという状況。一般的な常識とはかけ離れた生活状況を目の当たりにし、よくこれで生活しているなど逆に感心してしまつたことで印象に残っています。また、おそらく機構の捜索の中で最短時間で終了ではないのかとちょっと恥ずかしく思っておりますが、何も無いのが明らかでしたのでいたしかたありません。また、3カ月かかって自主納付をしていただいた案件は、行政に対して不信を抱いている滞納者と電話で折衝し、所有する不動産を売却した代金により全額納付に至つたもので、納税折衝の重要性を再確認したものです。繰返し折衝していく過程で相手の態度も軟化し、税の公平性を理解してもらつた上での自主納付は私の真摯な姿勢が通じたのではないかと手前みそながら思っています。

このような案件の他にもさまざまな滞納者に会い、調査、納税相談、差押と一連の徴税業務を行ってきましたが、機構にきて学んだというか再確認したことがあります。基本的なことですが、それは、自分がどれだけ「ブレない」かということです。どんなに滞納者が強硬にでてきても納めるべきものは納めてもらうという強い意志さえあれば、相手にひるまず、こちらの誠意を分かつてもらえるのではないかとということでは、これは、この仕事だけではなく、これからの人生においても役に立つものではないかと自分に言い聞かせています。さて、今年度も残り3カ月になりました。これからも市町村の自主財源の確保、徴収率のアップ、滞納額削減のために完納件数を増やすよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

ご意見ご要望は下記までお願いします
宮城県地方税滞納整理機構
(宮城県総務部地方税徴収対策室内)
〒980-8570
宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
電話022-211-6681/FAX022-211-2289
E-mail:choutai@pref.miyagi.jp
http://www.pref.miyagi.jp/choutai/